

## 公開セミナー「ちくまの自然はいま」を開催

第20回を記念する平成26年度公開セミナーが、12月14日（日）に千曲市で開催されました。当日は衆議院議員総選挙と重なったにも関わらず、約60名の方に参加いただくことができました。ご参加いただいた市民の皆様、また共催・後援をいただいた千曲市・千曲市教育委員会、さらに協力団体のNPO法人千曲市環境会議の皆様、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。



会場での講演風景

講演では、はじめに千曲市版レッドデータブック作成に携われた中山冽さん（長野県植物研究会会長）に、千曲市の多様性に富む植物について解説いただきました。市の植物にはタノウツギやブナ林のような「日本海側要素の植物」とチョウジザクラ、ハシドイなどの「太平洋側要素の植物」、さらにシラカシ、アベマキ、ヤマザクラなどの「暖温帯性の植物」が見られ、多様な自然環境を創出していることを述べられました。同じく宮沢誠さんにはブック発行以降も継続されている希少種モニタリングの状況、現場での保全へつなげる際の課題などについて紹介いただきました。

次いで、当研究所の堀田（鳥類生態担当）が約10年ぶりに改訂することになった県版レッドリストの概要と各分類群のトピックを紹介しました。植物編では、絶滅種の再発見、また絶滅危険性の要因として生育地の破壊



意見交換会のようす

劣化、草地の管理停止が依然として大きな割合を占める一方、あらたにニホンジカ等による採食圧も要因としてあげられるようになってきていること。動物編については、最近のDNA分析等の成果等を加味して今年度末に公表される予定です。

つづいて大塚が「千曲川流域で増えはじめた外来生物」について、富樫が上田城の土台を形作っている「上田泥流」の起源に関する最新のデータを、さいごに畑中が昨年度から本格運用している市民参加調査「温暖化ウォッチャーズ」の可能性と課題について紹介しました。

このあとの意見交換では、地形や自然観察の着眼点といった身近な話題から、自然環境保全にあたっての市民と行政との連携のありかたなど、さまざまな視点から活発な質疑が交わされました。

（北野 聡）



千曲市の自然に関する  
パネル展示コーナーも